

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■揖斐郡3町、JA、農業共済との連携 「営農連絡会議」を開催

6月6日に第2回営農連絡会議を開催し、各品目（土地利用型作物、施設・露地野菜、果樹、茶、花き、特産農産物）および施策項目（担い手、GAP、スマート農業、収入保険）について情報交換を行った。また、JAから「JAいび川営農ビジョン」に基づき、本年度の営農指導方針等が示された。

互いに把握していない情報も共有することができるなど、今後の農業振興を進める上で有意義な情報を得ることができた。



【会議の様子】

■令和4年産小麦 麦作共励会県審査

揖斐地域の令和4年産小麦の収穫は6月18日に終了し、収量は前年比120%、品質も1等が見込まれている。その中で、岐阜県米麦改良協会主催の麦作共励会に揖斐川町の（農）まるよし農園がJAから推薦され、5月27日に県審査が行われた。

（農）まるよし農園は排水対策を徹底することで、収量は毎年増加しており、令和4年産は過去最高の収量が見込まれている。

昨今の海外情勢を踏まえ国産小麦の重要性が見直されており、農業普及課では引き続き排水対策、病害対策の徹底を図り、小麦の安定生産を支援していく。



【県審査の様子】

■指導農業士 感謝状の贈呈及び認定証を交付

6月16日、揖斐農林事務所長から令和4年3月で退任された指導農業士1名への感謝状贈呈、今年度新たに認定された2名へ認定証交付を農政部長に代わり行った。本来ならば県農業士会通常総会の式典の中で贈呈、交付されるが、今年度は新型コロナウイルスの感染防止のため総会は小規模で行われたものの、昨年引き続き式典は中止となり、各所属で対応したものである。

退任された元指導農業士には、長年にわたり、新規就農者の育成や地域の農業振興の牽引役として貢献していただいた労をねぎらうとともに、引き続きOBとして地域農業への助言者として活躍をお願いした。また、新規で認定された2名には、地域リーダーとして活躍していただくよう期待を込めて交付した。



【感謝状贈呈】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■茶 まるっと1日美濃いび茶デーの開催

6月11日にアクティブG ふれあい広場において、全農ぎふ主催の美濃いび茶のイベント「まるっと1日美濃いび茶デー」が開催され、イベントの運営等支援を行った。

午前中には茶産地の池田町、揖斐川町をPRするクイズ大会、午後からは管内の和菓子職人と管理栄養士及び茶商によるトークショーが行われ、お茶とスイーツ、またお茶とSDGsについて紹介された。会場には多くの人が賑わいをみせ、お茶のプレゼントもあり、美濃いび茶の魅力をPRしたイベントとなった。



【美濃いび茶イベントの様子】

■夏秋なす 目揃え会の開催

今年度は定植後から好天に恵まれ、生育も順調に進んでおり、順次収穫が始まっている。そこで、高品質ななすを出荷するため、6月21日、23日に各地区で目揃え会が開催された。目揃え会は、全農や市場関係者から市場情勢などの情報提供がされ、出荷者同士でしっかり出荷規格の確認を行った。農業普及課から梅雨から梅雨明け後の栽培管理ポイント等についての説明を行い、品質、収量向上に向けた支援を行った。



【目揃え会の様子】

■いちご 令和3年作を終えての反省会の開催

いちごの出荷が終了し、揖斐川いちご生産組合で反省会が行われた。令和3年産は11月3日からと早めに出荷が始まり、年内の生育が安定しなかったため、昨年より出荷量はやや減少した。(対比 97%)が、平均単価は上回り(対比 105%)金額は昨年並みとなった。本年の反省を活かしながら、次作の生育管理を行っていくことを意識統一されるとともに、農業者の高齢化などにより、作付面積や部会員の減少が進んでいく中、産地を維持していくための取り組みについても検討していくことを確認された。農業普及課としても、今後の部会活動について支援を行い、揖斐地域のいちご生産振興を図っていく予定である。



【反省会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■農業婦人クラブ 理事会を開催

6月14日に、揖斐地区農業婦人クラブ役員8名が出席し、第1回理事会が行われ、令和4年度の事業計画等について協議した。従前の味噌づくり研修がきっかけで、令和4年度から新たに1グループ7名の会員が加わり、9グループ56名となった。

各グループの活動について情報交換を行った後、事業内容を検討し、今年は8月末に視察研修を計画することとなった。詳細については次回7月の理事会で検討を行う。



【理事会の様子】